

川崎都市計画道路の変更（川崎市決定）

都市計画道路中 3・4・9 号尻手黒川線を次のように変更する。

種別	名称		位置			区域	構造				備考
	番号	路線名	起点	終点	主な経過地	延長	構形式	車の線数	幅員	地表式の区間における鉄道等との交差の構造	
幹線街路	3・4・9	尻手黒川線	川崎市幸区小倉字南耕地	川崎市麻生区黒川字宮添	川崎市中原区井田中ノ町、高津区梶ヶ谷5丁目、宮前区菅生4丁目、麻生区片平	約 22,840 m	地表式	2車線	18m	J R 東海道新幹線と立体交差 東急東横線と立体交差 J R 武蔵野南線と立体交差2箇所 東急田園都市線と立体交差 小田急小田原線と立体交差 自動車専用道路と立体交差2箇所 幹線街路国道 246号線と立体交差 幹線街路と平面交差26箇所	土橋地内で高速自動車国道第一東海自動車道と接続
	車線の数の内訳		2車線			約 12,560m					
			4車線			約 10,280m					

「区域及び構造は計画図表示のとおり」

理由 別紙理由書による

理 由 書

川崎都市計画道路の変更（3・4・9号尻手黒川線の変更）

都市計画道路は、都市の骨格を形成し、都市における人や自動車交通などの円滑な移動を確保するとともに、都市の将来像を方向付け、市街地環境の形成に大きな影響を与える根幹的な都市施設です。

本市の新総合計画である「川崎再生フロンティアプラン」では、都市や経済の再生と多様化する市民生活を支え、環境との共生の中で持続可能な都市を構築することを目指し、交通体系整備の取り組みの一つとして、市域の幹線道路網の整備を推進することとしております。

本案の都市計画道路尻手黒川線は、本市の縦断方向の交通を担う主要幹線道路の一つであり、昭和21年8月の都市計画決定以来、現在までに総延長約22,840mのうち、約18,600mが完成しております。

本路線のうち、麻生区片平2丁目地内の柿生緑地を通る区間は、昭和52年5月に緑地の保全を目的としてトンネル構造に都市計画変更を行い、本線の幅員により区域を決定しておりますが、事業化に向けた詳細検討を行った結果を踏まえ、都市計画道路尻手黒川線の柿生緑地内を通る約260mの区間について、本案のとおり、トンネル構造物を含む区域に変更するとともに、擁壁部分の一部区域を変更するものです。

また、都市計画法施行令の一部を改正する政令（平成10年政令第331号）の施行に伴い、車線の数を定めるものです。

新旧対照表

新旧別	名称		位置			区域	構造				備考				
	番号	路線名	起点	終点	主な経過地	延長	構造式	車の線数	幅員	地表式の区間における鉄道等との交差の構造					
新	幹線街路	3・4・9 尻黒手川	川崎市幸区小倉字南耕地	川崎市麻生区黒川字宮添	川崎市中原区井田中ノ町、高津区梶ヶ谷5丁目、宮前区菅生4丁目、麻生区片平	約22,840m	地表式	2車線	18m	JR東海道新幹線と立体交差 東急東横線と立体交差 JR武蔵野南線と立体交差2箇所 東急田園都市線と立体交差 小田急小田原線と立体交差 自動車専用道路と立体交差2箇所 幹線街路国道246号線と立体交差 幹線街路と平面交差26箇所	土橋地内で高速自動車国道第一東海自動車道と接続				
												車線の数の内訳		約12,560m	
														約10,280m	
旧	幹線街路	3・4・9 尻黒手川	川崎市幸区小倉字南耕地	川崎市麻生区黒川字宮添	川崎市中原区井田中ノ町、高津区梶ヶ谷5丁目、菅生、麻生区片平	約22,840m	地表式	二	18m	国鉄東海道新幹線と立体交差 私鉄東急東横線と立体交差 国鉄武蔵野南線と立体交差2箇所 私鉄東急田園都市線と立体交差 私鉄小田急小田原線と立体交差 自動車専用道路と立体交差2箇所 幹線街路国道246号線と立体交差 幹線街路と平面交差26箇所	土橋地内で国道東海自動車道と接続				